第33回広島市障害者ボウリング大会　申し合わせ事項

1. 競技規則及び選考方法
   （1）　令和7年度（公財）全日本ボウリング協会制定ボウリング競技規則に準じ、全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人日本パラスポーツ協会制定）及び本大会申し合わせ事項基づき実施する。
   （2）　この大会は、令和８年10月に青森県で開催される第25回全国障害者スポーツ大会の広島市代表選手選考会を兼ねて実施する。ただし、精神障害者は、全国障害者スポーツ大会競技規則上、選考の対象にはなりません。
   （3）　全体のトップのスコアの方は、広島市代表選手に推薦する。ただし、3年連続はない。他の広島市代表選手は、将来性・出場経験等を考慮して選考される。

2. 競技方法
   （1）　<u>1人２ゲーム、シングルレーン方式で行う。</u>
   順位は２ゲームトータルで決定する。
   【同点の場合】
   ①　1ゲーム目と2ゲーム目の差が少ないほうが上位
   ②　ストライクの数が多いほうが上位
   ③　スペアの数が多いほうが上位
   （2）　ファウルは故意ではない限りファウルとはしないが、ファウルラインは越えないように気をつけること。
   （3）　投球練習は２球とする。

3. 表彰
   （1）　各障害別、年齢別、男女別それぞれ1位～3位までメダル、それ以外の選手には敢闘賞を授与する。
   （2）　部門の人数が8人以下の場合、他の部門と合同で順位を決定する。

4. その他
   （1）　服装は、ボウリング競技をするうえで支障のないものを着用する。
   （2）　ソックスを必ず履くこと。
   （3）　ボウラーズエリアに入る際は、必ずボウリングシューズを着用すること。
   （4）　選手は、競技中ボウラーズベンチを離れてはならない。やむを得ず離れる場合は、必ず競技補助員に申し出ること。
   （5）　ボウラーズエリアに入ることができる者は、選手、競技役員、競技補助員、手話通訳員とする。
   （6）　観覧はボックス内後方とする。

☆基本マナー☆

★隣のレーンの人との同時投球はやめましょう

隣のレーンの人と同時に投球動作に入ってしまうと、距離が近いため投げにくく危険です。隣の人が投げ終わるまでアプローチの後ろで待ちましょう。

同時に投球動作に入った場合は、右側の人が優先です。また、ボールをかかえたまま長い時間アプローチに立つのはやめましょう。

★投げ終わったら、アプローチを離れるようにしましょう

投げ終わった後も、レーンの中で立ちつくしたり、はしゃいだりしないようにしましょう。隣のレーンの人のさまたげになりますし、とても危険です。投球後は次の人に場所を譲るよう、アプローチを離れましょう。

★ロフトボールはやめましょう

ボールを投げるときに、ドーンとボールを落としてしまう事を「ロフトボール」といいます。これはレーンを傷つけますのでやめましょう。近くのレーンの人にも迷惑です。

★アプローチで飲食をしないようにしましょう

清涼飲料水などをこぼさないでください。アプローチにはオイルが塗ってあるため、水分などがつくとすべらなくなり、転んでしまうことがあります。
万が一こぼしてしまった場合は、すぐに拭き取るか、スタッフにお願いしましょう。

★使った用具はもとの場所にもどしましょう

ボールはもとの棚へ、シューズはカウンターへもどしましょう。